

平成27年度

中学 一般 第1回

国 語

注 意

- 1 問題は「一」から「三」までで、「8」ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は50分間で、チャイムの合図で開始し、終わりのチャイムで筆記具を置いて下さい。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、問題用紙と解答用紙を提出して下さい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書いて下さい。
- 6 受験番号と氏名を解答用紙の決められたらんに記入して下さい。

一 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- ① 休みには故郷にキセイしていた。
- ② 品物を店にオサめる。
- ③ 言葉がチイキによって違う。
- ④ ココロヨい音が聞こえてくる。
- ⑤ キチヨウな情報を聞いた。
- ⑥ 優しい口調で話す。
- ⑦ 春の気配を感じる。
- ⑧ 体裁を整えようとする。
- ⑨ あの行動は軽率だった。
- ⑩ 体育の授業は屋外で行う。

二 次の文章は重松清の小説「小学五年生」の一節である。目の手術を受けるアツシは翌日から入院する。この日はアツシと一緒に過ごそうと少年（兄）は決めていた。アツシが「海に行きたい」と言うので、少年は自転車にアツシを乗せて海を見られる場所に連れて行くことにした。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（注意）字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

ずっと足手まといだった。少年が団地の友だちと遊ぶとき、アツシは「ぼくも、ぼくも」と仲間に入れてほしがった。でも、仲間に入ってもいつも「おみそ」扱いだった。歳が四つも下だし、すぐにけつまずいて転んでしまうし、ボールの転がる方向や距離がうまくつかめないの、サッカーやソフトボールの球拾いさえまともにできない。

そんなアツシを見るたびに、いらいらした。友だちがメガネをからかったり、目の悪さのせいでいじめたりしたことはなかったが、気をつかわれているのがわかるから、嫌だった。アツシと一緒にいると、なんだか自分まで「弱いほう」になってしまうようで、まだ遊びたがっているアツシを無理やり帰らせて、泣かせてしまったこともある。

① かわいそうなことをした。いまは思う。いまだから思う。もつとたくさん遊んでやればよかった。キャッチボールの相手をせがまれたとき、どうせアツくんには無理だよ、と断るのではなく、たとえボールを後ろにそらしてばかりでも付き合ってやればよかった。

手術が成功すれば、視力はだいぶ上がる。いまほど分厚いメガネをかけずにすむし、ものがゆがんで見えるのも治る。でも、もしも失敗してしまうと——父も母も、そのことはなにも話さない。だから、少年も訊けない。

「アツくん」前を向いたまま、声をかけた。「なんで海に行きたいんだよ」

「なんとなく……」

「だって、おまえ、海なんかべつに好きじゃないだろ」

「でも……わかんないけど、なんとなく……」

「明日入院するから？」

少年の声は、かすかに震えた。アツシの返事がなかったので、ハンドルを強く握りしめた。胸がつつかえて、どきどきする。胸の中には、まだ訊きたいことが残っている。

目の手術をするから？ 手術に失敗するかもしれないから？ もしも失敗したら目がどうなるのか、アツくん、知ってるの——？

道は上り坂になった。二人乗りで漕ぐのはもう無理だ。少年は胸をつつかえさせたまま、自転車から降りた。アツシも荷台から降りようとしたが、「いいよ、おまえは乗ってて」と振り向かずにつて、自転車を押していく。

「らくちん。牧場に行ったときみたい」

アツシは笑った。去年の夏、家族で高原の観光牧場に出かけ、曳き馬に乗った。両親に「勇気出してがんばれ」「怖くない怖くない」と励まされて一人で鞍にまたがったアツシは、白樺林の中を一周した。最初は鞍についた取っ手を両手でしっかり握りしめていたが、終わりの頃には片手を離して、母のかまえるカメラに向かってVサインをつかった。「勇気出してがんばれ」「怖くない怖くない」と、両親は手術の前にも言うだろうか。手術に成功したら、アツシはまたVサインをつくるのだろうか……。

入院は二週間の予定だった。目の中にメスを入れるというのに、意外と短い。そんなに難しい手術ではないのかもしれない。でも、もしも、もしも……と考えると、「もしも」の向こう側にあるものがどんどん近づいてくる気がする。怖い。だつたらなにも考えなければいいのに、勝手に考えしてしまう。両親に文句を言いたい。もっと早く手術を受けさせていれば、少年も幼すぎて「もしも」のことは考えずにすんでいたのに。

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。汗が目に滲みる。拭き取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。汗と涙がにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

日曜日の商工会館は玄関に鍵が掛かっていた。少年はあきらめきれずに玄関のガラスドアを押したり引いたりしたが、アツシはさばさばした様子で

「おにいちゃんと二人乗りしたから、面白かったから、もういいよ」と笑った。

「だめだよ、そんなの」

開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。たまにはそういうことで「もしも」を使いたかった。

「勝手に入ったら怒られちゃうよ……」と逃げ腰のアツシの手を引いて建物の裏に回ると、非常階段があった。落ちないように柵のついた、らせん階段だった。

よし、と少年はうなずいた。方角も海のほうを向いている。いいぞ、と頬がゆるんだ。「もしも」が当たった。めったに当たらないから「もしも」なのだから、もう一つの「もしも」は、これでもうはずれる——と、いい。

階段を上った。転んだときのためにアツシの後ろに回った少年は、「手すり、ちゃんと持ってるか」と何度も声をかけた。階段の段差はけっこうあつて、まだ小さなアツシは、一段ずつ踏ん張らないと上れない。でも、それがかえてよかったのか、アツシは一度もけつまずくことなく、よいしょ、よいしょ、と上っていった。

三階から四階に上る途中で、まわりの建物の高さを超えて、視界が開けた。

「アツくん、海、あっちだから」

少年が指差す方向に目をやったアツシは、途方に暮れた顔で「どこお……？」と訊いた。

「もっと先だよ、ずーっと先のほう」

見えるのだ。ビルや家の建ち並ぶ街を越えたずつと先に、空よりも微妙にまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江が小さく見える。間違いない。あれは海だ。

⑤柵の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに、アツシはしばらく黙って柵に顔を張りつかせた。

カウントダウンは十。少年はそう決めた。十数えても海を見つけれなかったら、もっと上まで行けばいい。このビルは六階建てだから、どこかで海を見つけれられる。絶対にだいじようぶ。自分に言い聞かせて、いち、にーい、と数えはじめて……なな、で終わった。

「わかった！ 見えた！」

アツシの歓声が、鉄の階段にキンと響いた。

二人はしばらく黙って、街と、空と、海を眺めた。ときどき顔を見合わせて、アツシはうれしそうに、少年は照れくさそうに、笑った。アツシのほうが階段の上の段にいるので二人の顔の高さはほとんど同じで、正面から見るときにはアツシのメガネの渦もそれほど目立たないだな、と少年は気づいた。

「夏休みになったら、ほんとに海に行こう」

少年が言うと、アツシは「泳げる？」と訊いた。

「泳げるし、お母さんに水中メガネ買ってもらって、もぐって遊ぼう」

「お魚、見える？」

少年は息をすうつと吸い込んで、「アツくんの目が良くなったら、見えるよ」と言った。「だから見えるんだよ、絶対、百パーセント」

「……ほんと？」

「信じてよ、ばーか。文句言ったら置いて帰るぞ」

胸につつかえていたものが、とれた。アツシもなんだかほつとしたように、えへへっ、と笑った。

(重松清著『小学五年生』より)

問1 ———線部①「かわいそうなことをした。」とありますが、なぜ「かわいそうなことをしたのですか。その理由として誤っているものを次のア

～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア アツシと同じく自分まで「弱いほう」になってしまったから。

イ アツシが気をつかわれているのがわかり、嫌だったから。

ウ アツシが足手まといだったから。

エ アツシのことが嫌いだっただから。

問2 ———線部②「胸をつつかえさせたまま」とありますが、どういうことですか。説明として適当な部分を本文中から十二字で書きぬきなさい。

問3 少年がアツシに海を見せようとする様子が最も表れている一文を本文中から探し、初めと終わりの三字を書きぬきなさい。

問4 ———線部③「もう一つの『もしも』」とありますが、何を表しますか。本文中の語を使い、答えなさい。

問5 ———線部④「ビルや家の建ち並ぶ街を越えたずつと先に、空よりも微妙にまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江が小さく見える。」とありますが、何を表していますか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海が遠いところにあること。

イ 目が悪いため、海が見えにくいこと。

ウ 海がとてもきれいであること。

エ 海を見るために、遠いところまで来たこと。

問6 ———線部⑤「柵の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたい」とありますが、何をしていることをたとえた表現ですか。答えなさい。

問7 海を見つけた後のアツシと少年の気持ちを表した部分を、本文中からAアツシは五字で、B少年は六字でそれぞれ書きぬきなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注意) 字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

考えてみれば、女性^①はすばらしいと思う。

職場で会う女性にしても、電車で乗り合わせる女性客にしても、街で見かける通りすがりの女性にしても、ほぼ一〇パーセントの女性が、程度の差こそあれ、なんらかの化粧^②をしている。外出する前のひとときは必ず鏡に向かい、メイクアップして社会的自己を構築^③し、外出モードに切り替えて外出しているのだろう。そう考えると、なんとも頼^{たの}ましい。

人間が他の動物より格段に優れた能力は何かと問われれば、それは社会的コミュニケーション能力だ。その点、毎朝鏡に向かって化粧をしている女性^④は、男性よりもよほどコミュニケーションに不可欠な社会的知性に長けているといえるかもしれない。

A それにひきかえ僕^{ぼく}ときたら、髪の毛は自分で切り(所要時間三分)、髭^{ひげ}は本や新聞を読みながら電気剃刀^{かみそり}で剃^そる。僕にはシャンプーと石鹸^{けけん}の区別はないので、その日に手に取ったシャンプーかボディソープのどちらかで髪の毛からつま先にいたるまで洗ってしまう。そして自然乾燥^{かんそう}させれば、僕の「ヘアスタイル」ができあがる。

B 脳科学的に「化粧」を研究する中で、自分がいかに社会的自己の形成に無頓着^{むとんちゃく}かを改めて思い知らされ、猛省^{もうしやう}してしまった。

いったん反省してみたとはいえ、これから先、僕が外出前に鏡に向かってしばし時を過^{すご}すことはとてもできないだろう。鏡に向かって、人の目を意識しながら顔や髪を整えるということには、どうしても違和感^{いしご}がともなってしまう。僕が尊敬する作家の椎名誠^{しいな まこと}さんも同じようなことを言っていたのを記憶^{おく}している。手洗いの鏡の前で男が髪を整えている姿には虫酸^{むしず}が走ると。そこまで極端^{たん}な嫌悪感^{けんあつ}は覚えられないものの、椎名さんの気持ちがわからないでもない。

C 鏡に向かうことや化粧に対する志向性^⑤には、あきらかに男女の差^⑥がある。その男女差について詳しくは第3章に譲^{ゆづ}るが、それでも男の僕にとつては、女性が自分の顔に日々飽^あきもせずに向かい合い、化粧をするために数十分という時間を費やし、鏡に向かえることが不思議でしようがない。同様^⑦に思っている男性は、世間に多いのではないだろうか。

D なぜ、女性^⑧は出かける準備にそんなに時間がかかるのだろうか。男性からすると、誰もそんなに細かいところまでは熱心には見やしないのになどとつい思ってしまう。

いや、ところがそんなにあなどつてはならないのだ。化粧は女性がこれから出会うであろう誰かのために社会的自己を構築する、高度で知的な儀式^{ぎし}に他ならないのだから。

二〇〇七年七月から、カネボウ化粧品と共同で、脳科学的な知見から「美の本質」や「化粧の本質」について研究をしてきた。

その中で、興味深い検証結果がある(本研究については本書所収の恩蔵^{おんざう}絢子^{あやこ}博士の寄稿「鏡や化粧を通した自己認知」を参照されたい)。飽きもせず化粧を日課とする女性の謎^{なぞ}を解く、ヒントとなるかもしれない。それは、女性が鏡に向かうときには、脳が喜んでいるということである。

人間の脳がいちばん喜びを感じるのは、他人とのコミュニケーションだということはよく知られている。とくに目と目が合うことはいちばん嬉しいことだ。化粧でもアイメイクが重要視^じされるのは、このためだ。アイラインをくつきりと引いて、アイシャドウでメリハリを付け、マスカラで睫毛^{まつ}を強調する。そんなメイクの一つひとつに、他者とのコミュニケーションでは大きな意味があるのだ。

目が合えば「あ、わたしはこの人に注意を向けられている」「関心を持たれている」「心にかけてもらっている」と感じ、脳が喜ぶ。このアイコンタクトは、コミュニケーションの基本である。

子どもは、困ったことがあったとき、無意識に親のほうを見る。そのときに親がやさしく見つめ返してあげられるかどうかはとても重要だ。見つめ、見つめ返す。見つめ返されれば子どもの脳は喜ぶ。そして愛着^{あいしやく}が生まれる。アイコンタクトで人間は育つ。幼い時分にこうして親子間でしっかりと育まれたコミュニケーションが、人間社会の基礎^{きそ}を築いていくこととなる。

【ところでこのアイコンタクトで脳が喜ぶというのは、どういう現象なのだろうか。それは、脳内の報酬系^⑨が活発化して、ドーパミンが放出されることを意味している。

美しい音楽やおいしい食べ物、好きな異性に出会うなど、本能的な喜びを感じたとき、また、ある行動をとって周囲に認められたり褒められたりしたときに、脳内に神経伝達物質が放出される。それがドーパミンだ。

ドーパミンが放出されると人間は快楽(報酬)を得ることができ、そしてその快楽を再び得ようと、ますますそのドーパミンが放出された直前の行動を強化する。これが「強化学習」のメカニズムである。

想いを寄せる人に会えれば脳は喜ぶ、ますますその人にまた会いたいと思う。この例は恋愛^{れんあい}の強化学習だ。おいしい食べ物や気持ちいい行為^いを繰り返し求めることを「クセになる」「病みつきになる」といういい方をするが、これはドーパミンによって一種^⑩のアディクション^⑪が起きていることを意味する。化粧をすることでドーパミンが放出されるのならば、それは美の強化学習につながる。

人間が他者とコミュニケーションをとるとき、とくに他人と目が合ったときには、この報酬系が活発化してドーパミンが放出される。

それでは、鏡に映った自分の顔、自分と目が合ったときには、人間の脳は他人と目が合ったときと同様に喜ぶのだろうか。実験の結果、鏡に映った自分と目が合ってもドーパミンの放出が計測された。

しかも、鏡の中の自分の顔でも、とくに化粧をする前の素顔の自分と目が合うことでドーパミンが多く放出された。このときに活発化する報酬系は、とくに尾状核^{びかく}という部位で、主に何かの行為によって得られる報酬を期待して働くとされている。

女性が、化粧をする前の素顔の自分に向かい合って脳が喜ぶ、しかも運動にかかわる部位でその現象が起こるという結果から、化粧後の自分の姿が他者(もしくは社会的)に認められることを想像し、期待感や励み^{はげ}、意欲といった感情が湧^わきあがっているとも考えられる。】

化粧は、これから外に出て、誰かに会おうとする女性の気持ちを前向きにし、他者との交流を補強し、対人関係を活性化させる。また誰でも、前向き

に自分と向き合ってくれる女性と対面していれば気持ち良く、相手に魅力を感じ、好感も抱く。
化粧は女性を精神面でも支え、社会的コミュニケーションを円滑にする重要な役割を担っているのである。

(茂木健一郎著『化粧する脳』より)

- 注1 カネボウ化粧品……化粧品会社のこと。
注2 アイライン……目にほどこす化粧。
注3 アイシャドウ……目にほどこす化粧。
注4 マスカラ……化粧品の一種。
注5 アイコンタクト……視線と視線を合わせること。
注6 アデイクション……中毒。

- 問1 線部①「女性」とありますが、筆者は化粧をする女性をどのように思っていますか。本文中から四字で書きぬきなさい。
問2 線部②「化粧」とありますが、筆者はどのようなものと述べていますか。本文中から四十字で書きぬきなさい。
問3 線部③「構築」とありますが、同じ内容で用いられている語を、本文中から漢字二字で書きぬきなさい。
問4 線部④「不可欠」、線部⑤「無頓着」の意味として最も適当なものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

④ 「不可欠」

ア なくてはならないこと。

イ 全く必要のないこと。

ウ 特別であること。

エ やってはならないこと。

⑤ 「無頓着」

ア 少しも気にかけないこと。

イ 少しも信頼していないこと。

ウ 少しも理解できないこと。

エ 少しも好まないこと。

- 問5 線部⑥「男女の差」とありますが、何をするに差がありますか。「すること」に続くように、本文中から六字で書きぬきなさい。

- 問6 線部⑦「あなどってはならない」とありますが、なぜですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

- 問7 線部X「の」と同じ使い方をするものを、次のア～エの線部「の」から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 発言した私の考えは、正しかった。

イ 明日は先生の来る日だ。

ウ 彼の言っているのは、昨日の話だ。

エ その人は優しい性格だ。

- 問8 線部⑧「この」が指しているものは何ですか。本文中から十六字で書きぬきなさい。

- 問9 左の文は本文中のA、Dのいずれかに入ります。最も適当な場所を一つ選び、記号で答えなさい。

・ちなみにこの一連の行為に、鏡は一切介入していない。

- 問10 本文中に他者の言葉を引用している部分があります。その部分の初めと終わりの三字を書きぬきなさい。

- 問11 次の文章は本文中の【 】の部分に要約したものです。ア、オに当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定された字数で書きぬきなさい。

アイコンタクトで脳が喜ぶとは、ドーパミンが放出される【ア(二字)】である。ドーパミンは本能的な喜びや周囲に認められ
たり褒められたりしたときに放出される【イ(六字)】である。この放出により人間は快楽を得て、さらに得ようと直前の行動を
【ウ(二字)】する。人間がコミュニケーションでとくにドーパミンが放出されるのは、【エ(二字)】と目が合ったときである。同様に、
鏡の【オ(二字)】と目が合ったときにもドーパミンは放出される。とくに化粧前の素顔の【オ(二字)】と目が合うときに多く放出される。

氏 名



①	キ セ イ
②	オ サ
③	チ イ キ
④	コ コ ロ ヨ
⑤	キ チ ヨ ウ

11

問
2

問
3

問
4

問
5

問
6

問
7

問
1

103

問
2

問
3

問
4

④

⑤

問
5

すると。

問
6

問
7

問 8

問
9

問
10

問
11

ア

1

ウ

I

才